



「はじめよう!科学コミュニケーション」

著者：北海道大学 科学技術コミュニケーター養成ユニット(CoSTEP)
(ナカニシヤ出版、総ページ数：204 ページ、定価：2000 円+税)

北海道大学の科学コミュニケーター養成ユニット(CoSTEP)[1]のスタッフが執筆した一冊。科学コミュニケーション[2]はここ数年のキーワードで、科学者・教育者・一般市民など様々な構成者との間を、科学技術に関わる情報を通して結びつけるやりとりを表します。そして、CoSTEP ではこの科学コミュニケーションを行う人材、「科学技術コミュニケーター」を養成する取組を行っています。

本書は CoSTEP のそのさまざまな取組・実践を紹介するとともに、科学コミュニケーションの様々な手法をレビューしています。その構成は以下のようになっています。

- 第 1 章 なぜ今、科学技術コミュニケーションか
- 第 2 章 科学技術ジャーナリズム
- 第 3 章 メディアとしての科学館 その新しい活用に向けて
- 第 4 章 サイエンスライターの可能性
- 第 5 章 「参加する市民」を支援する
- 第 6 章 科学教育の充実のために
- 第 7 章 理系研究者にとっての科学技術コミュニケーション
- 第 8 章 人文・社会科学と科学技術コミュニケーション
- 第 9 章 ラジオ
- 第 10 章 ウェブ
- 第 11 章 サイエンス・カフェ
- 第 12 章 サイエンス・ギャラリー
- 第 13 章 広報誌
- 第 14 章 出前授業
- 第 15 章 広報デザイン

ぱっと見た感じ、天文教育普及でも通じる内容は多く、その実践・手法から学ぶことは多いです。観望会、プラネタリウム番組の制作、広報誌の編集、ポスター作成、天文教室、展示など、われわれが日頃行っている様々な業務・実践が科学コミュニケーションの一つの形であることを改めて認識させられます。ちなみに、第 14 章の「出前授業」は本会会員の佐藤祐介氏が執筆しています。わたし自身は、第 12 章の「サイエンス・ギャラリー」に興味を覚えました。詳細は省きますが、科学館・公開天文台などで、サイエンス・ギャラリーのようなスタイルの展示があってもいいなと思いました。

中には、内容が薄いと思える章もありますが、それについては、対応する専門書を読めばいいことだと思います。とにかく、世間という科学コミュニケーションを概観し、われわれの日頃の活動に照らし合わせてみるにはいい機会となる一冊です。

他の類似の参考文献として、以下のものを紹介します。合わせて読むことを勧めます。

「サイエンスコミュニケーション 科学を伝える 5 つの技法」、千葉和義・仲矢史雄・真島秀行(日本評論社)

「科学ジャーナリストの手法 プロから学ぶ七つの仕事術」、日本科学技術ジャーナリスト会議・編(化学同人)

[1] CoSTEP については、<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/> を参照されたい。

[2] 科学技術コミュニケーション、サイエンスコミュニケーションと呼ぶこともある。

矢治健太郎